

令和8年3月保護者懇談会結果の概要及び 今後の進め方について

1 保護者懇談会の結果について

(1) 開催目的及び参加状況

【開催目的】

- ①検討プロセス見直しの説明
- ②小高の未来を担う子どもたちのための教育について、保護者との意見交換

【参加状況】

令和8年3月7日(土)及び8日(日)

区分			世帯数	人数	世帯参加率
参加者 (延べ)	トータル		24世帯	29人	18%
	(内訳)				
	会場		18世帯	23人	
	(内訳)	未就学児	5世帯	6人	11%
		在籍児童	9世帯	11人	15%
		在籍生徒	4世帯	6人	13%
オンライン		6世帯	6人		

※トータル24世帯中1世帯は重複世帯。

※9月保護者懇談会時は参加世帯：11世帯(8%) (オンライン含む)

※大甕・太田地区の保護者懇談会(2月)参加世帯：35人(17%)
(オンライン含む)

※オンライン1名を1世帯としてカウント

(2) 意見交換の概要

① 検討プロセスの見直しについて

令和7年9月に示した検討プロセスの見直しを行い、今後、新たな検討プロセスにより検討・協議を進めることについて、「参考資料1」により説明。その内容に対する意見等は次のとおり。(詳細は別紙資料2を参照)

i 検討の全体方針とプロセスについて

- ・見直し後の検討プロセスでは、どのように進めていくのか。
- ・学校のあり方の協議は、まず、学校の方向性（義務教育学校など）を決めてから、その方向性をよりよくするための議論をするほうがよいのではないか。
- ・保護者の意見を吸い上げる機会が少ないと感じる。検討のプロセスとして、もう少し段階を踏んで進めてほしい。
- ・議論の順番が逆ではないか。(まずは市の方針を示してほしい)

ii 検討協議会の検討体制について

- ・検討協議会にはPTA役員も入っているが、それぞれの保護者の意見がどのように集約され、反映されていくのかがわからない。意見集約の方法やタイミングを示してほしい。
- ・これからのことを考えるとこども園の保護者の意見は大切だと思う。こども園の委員を増やすべきではないか。

iii 保護者からの意見集約の方法について

- ・家庭内でも意見が違うことがある。保護者意識調査の方法は世帯単位ではなく、保護者それぞれが回答できるようにしてはどうか。

iv 学校（小中一貫教育）の現状について

- ・具体的に小中一貫教育を行っている現状がわからない。

- ・自分の子どもが在籍していないと小学校、中学校で具体的に何をやっているのかわからない。

v その他

- ・施設一体化の義務教育学校に関する協議をする際は、施設の老朽化や費用面等の実状の懸念点があれば共有いただき、その上で議論させてもらいたい。
- ・小学校・中学校の施設の現況を共有してもらってから学校の在り方を検討したい。
- ・どちらの施設が新しいかとの視点だけで学校の位置を検討しないでほしい。小高中は小高区のシンボルである。

② 保護者意識調査から見える保護者が考える今後の学校のあり方について

令和8年1月に実施した意識調査の結果より、保護者が目指すこども像を実現するため、今後充実させてほしい学校の取り組み等について、保護者から出された具体的な意見・アイディアは次のとおり。(詳細は別紙資料2を参照)

【知：学びの充実】

【テーマ：外国語教育】

① 義務教育を終えた時点で望む英語力について

- ・英語が話せるようになれば良い。聞き取りができ、単語くらいは返せるようになれば良い。ただ、子どもの英語が成長したという実感は湧いていない。
- ・高校受験や大学で抵抗がないくらいにしておきたい。
- ・外国でも通用する発音が学べるように、その土台を早いうちにつけておきたい。

② 現在の英語教育に関する評価とご意見について

- ・令和6年度まで実施していたT G Gの研修をまた行ってほしい。
- ・英語を楽しく発音し、好きと言ってくれているので、学校で教えていただけているのはありがたく、今後も続けてほしい。
- ・えいご発音あそびのやり方を保護者に共有してもらえる機会を設けてほしい。
- ・教師の異動もあるので、英語発音遊びを学校以外で継続できる仕組み作りが必要。その一つとして児童クラブなどを活用するのはどうか。
- ・学校の取り組みだけでなく、地域を巻き込んで、例えば小高ストアの商品説明等を英語で表示するのはどうか。

【知：学びの充実】

【テーマ：探究・プログラミング学習】

① プログラミング教育の意義と今後の在り方について

- ・高度なICTスキルや語学力を身につけることで、将来地元で起業する等、子どもたちのキャリアの選択肢が広がる。併せて、郷土愛についても育んでほしい。
- ・小高ならではの特色がある、小高だからこそ学べる義務教育学校を作ってほしい。
- ・プログラムを理解する必要は今後も続くので、苦手意識を持たないように、日常生活、身近なことからプログラミングを活用して便利にする取り組みがあったらよい。
- ・小高のコミュニティ（スーパー等）などを活用してプログラミング活用して便利にする取り組みがあったらよい。

② 探究学習における生徒の興味関心の引き出し方と外部連携について

- ・子どもたちの興味の選択肢を増やす取り組みがまずは必要だと思う。
- ・そのためにも、人や社会との接点を増やすことが大事である。

【体：健やかな成長】

【テーマ：体を動かす機会の確保】

① 部活動の他中学校との連携について

- ・部活動を他の中学校と連携してほしい。（主に団体競技ができるように）

② 登下校の方法について

- ・集団登下校を地域の協力をもらいながら（見守り隊など）できないか。（1カ所に集めてそこから集団登校を行うなど）
- ・そのことにより異学年交流による心の成長も期待できる。
- ・自転車通学を復活してほしい。

③ 放課後の過ごし方について

- ・大人の見守りがある中での放課後の活動充実をしてほしい。

④ 体験・自然学習について

- ・郊外での体験学習を行うことにより体力をつけられるのではないかな。

【その他】

① 意見交換会の進め方について

- ・地域も含めて安心して学べる環境づくりが必要である。
- ・小学校・中学校の取り組みが分からないので、教えてほしい。

② 「放課後の過ごし方」と「習い事」に関する現状把握について

- ・市の事業で子どもの「放課後の過ごし方」と「習い事」の調査を実施しており、それらを一度整理することで、新たな考えが出てくるのではないかなと思う。

③ 地域との連携による子どもの安全について

- ・保護者と地域のお年寄りとの間に、子どもの存否についてのギャッ

プがあるが、集団で登校する等、子どもたちがいると思ってもらえれば、見守る姿勢もつくと思う。

④ 放課後の居場所と子どもの成長について

- ・小学校までは、児童クラブといった放課後の居場所があるが、中学校にはそれが無いので、居場所づくりが必要である。

⑤ 市の教育環境・取り組み全般への評価について

- ・小高では幅広く学べることができた。(海外研修、プログラミング、相馬流山)

2 意見交換の内容を踏まえての今後の進め方について

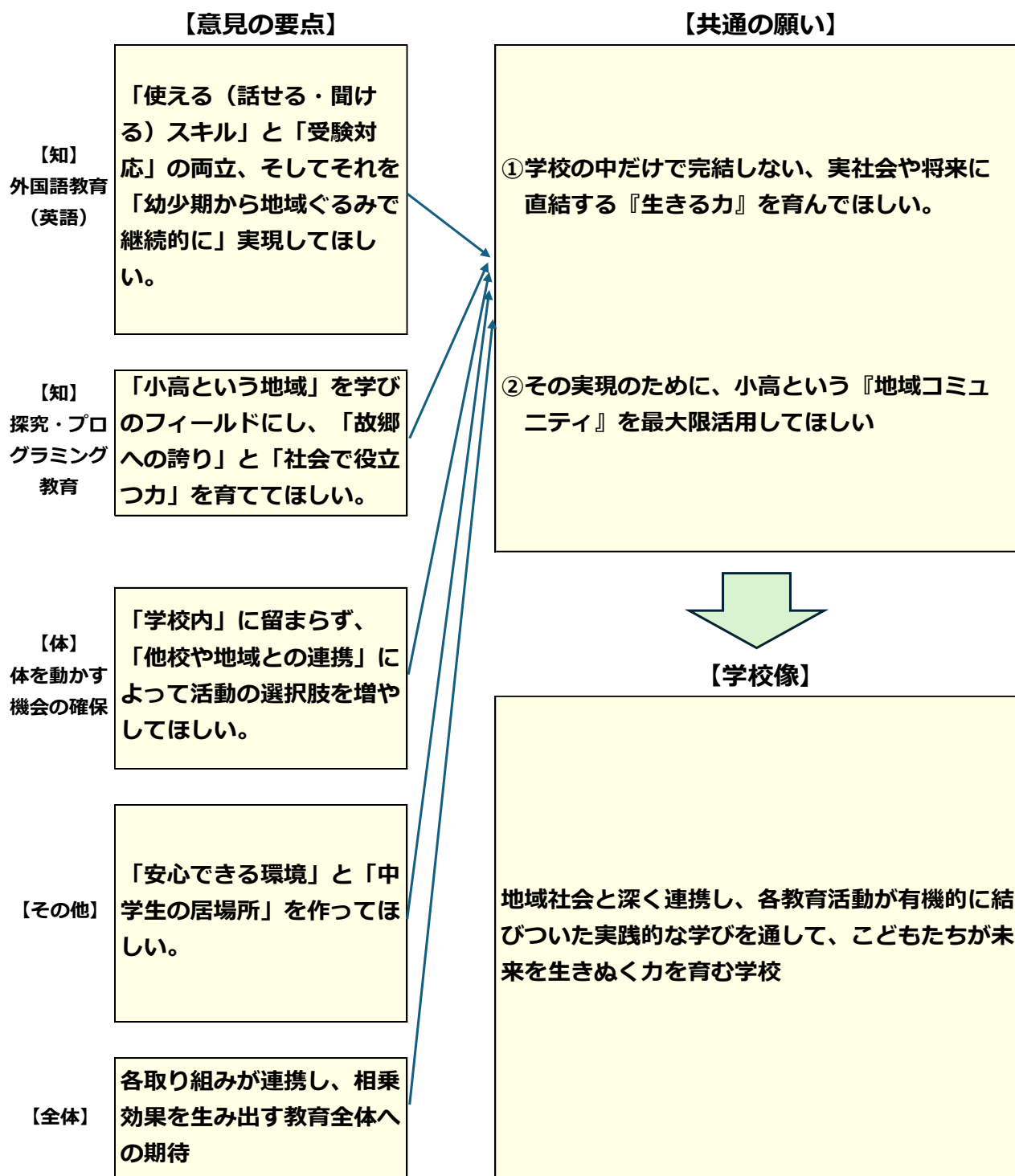
(1) 今後の検討プロセスについて

保護者からは、今後の学校のあり方を検討するにあたり、保護者の意見を丁寧に吸い上げてもらえる手法やタイミングについての意見が多く出された。

今後、協議・検討の進捗状況に合わせ、保護者が目指すこども像を実現するための「学校のあり方」について、保護者との意見交換の場を定期的に設けるなど、丁寧に意見を吸い上げることを行っていく。

また、協議・検討の状況についての情報共有を図るため、「協議会だより」による周知や、授業参観等の学校行事に合わせた各学校での説明会を開催するなど、保護者への理解促進を図ってまいりたい。

(2) 保護者の意見（アイデア）から見える、これからの学校の姿



※詳細は資料3のとおり。

(3) 今後の進め方

①現状分析（小中一貫教育の評価）の実施

⇒一定程度分析しているが、保護者意見と関連付けた分析

②現状分析と保護者意見資料3を突き合わせ、論点整理

(例) 保護者の願い：「使える英語力」「受験対応」の両立

評価結果（仮）：「英語への興味関心は高まった（成果）が、
実践的な会話力の向上には至っていない。

(課題)

論点（仮）：興味関心を維持しつつ、どうすれば「使える」スキルにつなげられるか。

(例：地域と連携した実践の場の創出)

③上記①②を保護者と共有し、論点について検討